学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1) 集団の中で切磋琢磨し人格の形成を図る。 2) 個人の尊厳を重んじ、知・徳・体の調和のとれた発達を図る。 3) 地域に根ざした一層豊かな学校文化、「菟道文化」の創造を図る。	○ 生徒の学力、体力、社会的能力、自己管理能力を総合的に向上させるため、授業、行事、部活動等を通して丁寧かつ粘り強い指導を行った。学校評価アンケート結果を見ると本校の教育活動に対する生徒、保護者の満足度は高く、成果はあったと考える。 ○ 「チーム菟道」については概念が抽象的で、生徒に十分に理解させることができなかった。具体的な場面で帰属意識を持たせる指導、また仲間を思いやる心や仲間同士で切磋琢磨することの大切さについて理解させる指導が必要である。 ○ 公開授業等の授業交流を通して教科指導力の向上を図った。アクティブラーニングや探究型学習等の研究については十分に取組めたとは言えず、早急に進めていかななくてはならない。 ○ 部活動の加入率が80%を越え、多くの生徒が積極的に活動し、ボクシング部、放送部が全国大会へ出場するなど成果をあげた。そのことにより、学校全体の活性化につながった。しかしその一方で、学習との両立に悩む生徒も見られた。今後も担任・教科担当・部活動顧問が連携し、同じ方向性で丁寧な指導をしていく必要がある。 ○ 特色化事業(国際交流・宇治田楽・論文コンテスト)については、教職員の熱心な指導のもと、生徒も真摯に、かつ意欲的に取り組み、年々レベルは上がってきている。ただ、一部の教科や学年への負担が大きく、取り組み時間の確保や他学年への分散化などの検討が必要である。 ○ 心に悩みを抱える生徒や特別支援を要する生徒への指導については、昨年度も特別支援教育コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー・担任を中心に、地域センター等とも連携し、適切に行うことができた。今後、全教職員が対応できるよう知識と技能の更なるスキルアップが必要である。 ○ 広報活動については、学校公開・説明会、中学校との連携、ホームページの充実等、本校の教育活動を積極的に外部に発信することができた。また、学校公開や説明会の参加者は目標値を超えた。しかし残念なことに志願者は定員に満たなかった。本校の魅力発信という点で課題が残り、その改善が必要である。 ○ 3年生の希望進路実現という点では、私立大学において成果が見られた。しかし、ここ数年、国公立大学への合格者は減少した。国公立大学を目指し本校へ入学する生徒は多く、減少の原因を分析し、今年度の指導に活かしていかななくてはならない。 ○ 家庭学習については、3年生で増加したが、1、2年生では不十分であった。1年次の学習に対する姿勢づくりが大切であり、今年度も継続的な指導が必要である。	○ 「知」「徳」「体」のバランスがとれ、10年後はもとより生涯にわたって力強く生きていける人間となるよう、全ての教育活動を通して、組織的で計画性のある、また、丁寧で粘り強い指導を行う。 ○ 「チーム菟道」という言葉に象徴される、他人を思いやる心を持ち、社会や集団内で各自の役割をしっかりと果たし、互いに切磋琢磨する生徒を育む。 ○ 高い目標を掲げて挑戦する、チャレンジ精神旺盛な生徒及び集団を育成する。 ○ 次期指導要領並びに大学入試改革を見据え、アクティブラーニング、探究型学習及び高大接続システムについて研究を進める。 ○ 読書活動や話し合いの活動を充実させ、「言葉の力」の育成を図る。 ○ 生徒一人一人の希望進路を実現させるため、質の高い授業と充実した進路指導を行う。 ○ 学習と両立できる、はじめある部活動の実践により、生徒の個性伸張と学校の活性化を目指す。 ○ 種々の課題を抱える生徒に対し、手厚い指導を行い、安心して学校生活を送れるような指導体制を整える。 ○ 特色化事業(国際交流・宇治田楽・論文コンテスト)を効果的に活用し、国際社会で活躍できる力の基礎を育む。 ○ 開かれた学校づくりを進め、本校の魅力を積極的に発信し、教育活動の活性化につなげる。

※「言葉の力」…情報を正確に理解した上で、相手の表現や意図や背景を推論し、根拠を挙げて自分の意見を述べ、話し合って与えられた課題を解決できる力

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	- 一人一人の希望進路を実現させるため、生徒の学力に応じた質の高い授業が行えるよう教科指導力の向上を図る。 - 高い目標を掲げて主体的・能動的に学ぶ生徒を育成するため、アクティブラーニングや探究型学習の手法について研究をする。 - 教育改革、大学入試改革にスムーズに対応し、効果的な教育が実践できるよう取り組む。 - 国際社会で活躍できる力の基礎を育む。	- 教科指導力向上に向け、年2回の授業交流（公開授業）を継続しつつ、より効果的な授業交流について検討する。 - 生徒の実態を踏まえて学習指導が行えるよう、学習時間調査を実施し、分析・フィードバックを行う。 - 様々な課題を抱える生徒に対して、学年・他分掌と連携し、学習のサポートができる体制を整える。 - アクティブラーニングについての研修会を実施する。また、実施状況について調査する。 - 次期学習指導要領及び高大接続システムについて研究する。 - 国際社会で活躍できる力の基礎を育むため、府の特色化事業を効果的に活用する。	B	B	- 授業交流については活発に行えた。各教員のそれぞれの授業について良い点、改善すべき点の確認が出来たのではないかと。来年度は、新学習指導要領に向けた授業のあり方について、特に「学び方」の観点から、テーマを設け、研究授業・授業交流を実施できないか検討する。 - 学習時間調査結果については、データを元に各学年・教科で検討して頂き、改善に向けての取組材料として活用して頂いた。さらに効果的な取組を学年、教科、進路指導部と連携を取りながら進めていきたい。 - アクティブラーニングについての研修会は実施したが、その後の取組に生かせていない。来年度は「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善に向けた研修を行いたい。 - 新学習指導要領や高大接続システムについての研究を継続し、2年後、3年後の本校の教育方針のあり方について議論が進められるよう取り組みたい。また、新学習指導要領における「探究的な学習の時間」の探究活動について、1年生で取り組んだポスターセッション、プレゼンテーションをさらに発展させ、本校の「探究的な学習の時間」についてのあり方を議論・模索していきたい。 - グローバルネットワーク京都（ポスターセッション）・国際交流（タイ・台湾高校訪問）・留学（短期・中期）等の取組は活発に行えた。今後も特色化事業を積極的に活用し、国際社会で活躍できる力の基礎を育成したい。
			B		
生徒指導部	- 自他の生命を大切にす豊かな心の育成を図る。 - 安心できる学習環境及び互いに支え合う心豊かな生徒集団作りを目指す。 - 基本的な生活習慣を確立させるとともに規範意識を高めさせる。	- 機会あるごとに挨拶の大切さを説くとともに門指導時や校内で教員が率先して挨拶するなどして自然に挨拶ができる生徒を育てる。 - 学年部、他分掌、各教科と密に連携をとり、をあげて組織的に遅刻指導や制服の着こなしを含む身だしなみのを行う。生徒アンケートの遅刻指導や服装・頭髪指導など校則に指導は適切に行われているとする項目の肯定的な回答70%以上を目指す。 - 学期に2回全教職員の協力の下、下校時の交通安全指導を行ったり、	B	B	- 粘り強く校門での挨拶指導を行った。生徒の反応は少しずつ良くなってきているが、自発的に元気な挨拶ができる生徒は多くない。 - 身だしなみについては概ね良好な状態にある。男子のツーブロックに対する指導については、さらなる共
B					

生徒指導部 (続き)	ア活動等に積極的に参加させることで誇りの持てる学校作りを推進し、生徒の自己有用感を高めさせる。	PTAと連携して年3回登下校時の交通安全指導を行うなどして、登下校時の生徒の安全を図る。 ・携帯電話等の校内持ち込みを許可したことを契機に、風紀委員会を通してルールやマナーの意味を生徒に考えさせ、自ら守る意識を高めさせる。携帯電話等に係る指導を5件以下を目標とし、生徒アンケートの授業中は落ち着いて勉強できる雰囲気があるとする項目の肯定的な回答80%強を維持する。 ・学校行事、生徒会活動、ボランティア活動に積極的に参加させたり、主権者教育などを通して、周囲と協力して課題を達成できる生徒の育成を図る。生徒アンケートの学校行事は活性化しているとする項目の肯定的な回答70%以上、ホームルーム活動や生徒会活動は充実しているとする項目の肯定的な回答60%以上を目指す。 ・学期に1回部活動のキャプテン会議を開き、誇りを持って部活動を行う雰囲気作りを行う。 ・学年部や各教科と連携して空き教室に施錠したり、見回りをするなどして安心できる学習環境作りを組織的に行う。また、いじめのない温かな生徒集団の形成を目指す。	A C B A B	通認識が必要である。 ・8時25分のチャイム(校門)と同時に遅刻としてカウントするように改めた。最近では生徒にも定着してきている。 ・教職員、PTAの協力の下、交通安全指導を計画通り実施することができた。数件の自転車事故が報告されているので、今後も自他の安全と命を守る指導の徹底が必要である。 ・携帯電話・スマートフォンのルールを守ることについては風紀委員による啓発等を行ったが、徹底できなかった。 ・個人情報や個人が特定できる写真を安易にSNSに掲載する事象が多く発生した。情報モラルに関する指導を教科等と連携しつつ、実施する必要がある。 ・天候等に恵まれないこともあったが、菟道祭、体育大会とも充実した内容であった。特に体育大会では新しく部活対抗リレーを導入し、たいへん盛り上がった。 ・学期に1回ずつキャプテン会議を開き、誇りを持って部活動に励むよう指導した。 ・学年部の教室施錠の取り組みにより空き教室での盗難は発生しなかったが、残念ながらその他の時間における盗難が1件あった。生徒の自己管理能力を高める指導を強化することも必要である。 ・いじめアンケートを有効に活用し、問題事象に適切に対応することができた。
進路指導部	・学年団・各分掌・教科と協力して、生徒の希望進路の実現に向けて組織的にサポートするとともに、人生における自己実現力、幅広い人間性を身につけさせる。	・生徒が日常の学習により学力を付けるとともに、進路について考えることを通して、「自分の能力・適性等を理解する」「高い目的意識をもつ」「目標に向かって自律的・計画的に努力する」よう能力を高め、確実に希望進路を実現することができるように指導、サポートする。 ・自己実現力、幅広い人間性を身につけ、「10年後の満足」につなげるために、「キャリア教育」「人権教育」を年間計画に基づいて実施する。	B B	・進路シラバスに従って各学年の進路指導の取組を実施した。進路HRについては、学年団と相談をしながら進めることができた。夏期・冬期復活は、日程や方法は概ね改善されたが、生徒の出席率に課題を残した。 ・キャリア教育、人権教育はほぼ計画どおりに実施できた。特に、自分の進路について主体的に考え、自己実現に繋げていく取組を工夫する必要がある。

図書部	・教科や他分掌との連携、委員会活動の活発化、また図書館刊行物の発行により読書指導を進める中で、図書館の積極的利用を勧め、貸出冊数の増加を図る。 ・視聴覚機器の整理と刷新・有効利用を図る。	・教職員推薦図書の紹介冊子「菟道の泉」を年1回、図書館だより「あじろぎ」を月1回発行し、読書をするものの意義や楽しさを発信し、教科や分掌と連携して積極的に読書指導をすすめる。 ・視聴覚機器のさらなる整備と刷新・充実を図る。 ・図書委員会の活動を活発に行い、文化祭やブックフェアなどのイベントを通して生徒が図書館に足を運び、本に親しむ機会を提供し、年間1人あたり5冊を目標に貸出冊数の増加を図る。 ・エクセレントリーダー賞（3年間で200冊貸出し）受賞者が3人（昨年度2名）となるよう、読書指導をすすめる。	B B C	B	・読書活動の推進に向け、従来より発行している「菟道の泉」「あじろぎ」に加えて、菟道祭でのしおりコンテストや消しゴムはんこ作り等のワークショップ、ライブラリーコンサートなど生徒参加型のイベントを行った結果、多くの生徒が図書館に足を運び、学校の広報にも貢献できた。貸出冊数は1人あたり3.8冊であった。今後も貸し出し冊数の増加に努めたい。エクセレントリーダーは今年度は1名であった。教科指導での図書館利用をすすめるなど貸出冊数増に向けた対策を講じたい。 ・授業や行事での視聴覚機器の使用が増えているが、機材の整備が追いついていない。引き続き、活用しやすい環境作りを目指す。
保健部	・自己の健康管理に努め、心身とも健康で安全に生き抜くたくましい身体と豊かな心を養う。 ・環境に対する関心を高め学校環境の美化保全ため主体的に実践できる態度の育成を図る。	・気になる生徒の情報交流を部長会及び担任団に週に1回以上行う。 ・保健部主導で、スクールカウンセラーとのコンサルテーションを必要に応じて該当生徒担任団や保護者で行う。 ・委員会活動を学期に2回以上行う。 ・保健室前掲示板からその時期に必要な生徒に向けた広報を行う。 ・薬物乱用防止及び性教育の講演会を開催し、最新の情報を生徒に発信する。	B B A B B	B	・生徒についての情報交流を密に行った。教科担当の先生にも伝わるように部長会で話しており、そのことを通じて教科での生徒の様子への理解につながることがあったが、部長会で話されることに慎重な意見もあった。 ・カウンセリング終了後にSC・該当担任・保健部でコンサルテーションを実施し、支援の方向性を探れたことが今年度増えた。次年度以降、相談に結びつかない生徒のコンサルテーションを行い、具体的な支援の方策を探していけるようコーディネートしていきたい。 ・活発に委員会活動が行われた。各委員会のたよりや保健・美化清掃活動を積極的に行うことができた。 ・保健室前の掲示板では健康に関する啓発活動をタイミングよく広報できた。また、書道部に協力してもらい、生徒の心に届いてほしい言葉の掲示ができた。 ・薬物乱用防止教育及び性教育についての生徒からの質問等にもフィードバックできた。
総務企画部	・中学校や地域社会に対して、学校への理解と信頼を深めるために広報活動全般の推進を図る。	・学校説明会及び学校公開並びに中校訪問や塾の説明会、さらにUJI学などの運営や調整を行い、学校への理解を深める。			・昨年度と同数の中学、塾への訪問、説明会を行った。今年度は中学校訪

総務企画部 (続き)		・学校説明会・学校公開の年間参加者が1500人を超える広報活動を行い、説明会参加者アンケートの満足度95%以上を目指す。 ・菟道高校だよりや学校案内、ポスター、HP、菟道高校PTAメール等の広報媒体の作成、管理、更新を行う。具体的には、学校案内の冊子化、ポスターを3種類以上作成、HPの内容・運営の見直し、公式HPは週3回以上更新、菟道高校PTAメールは週1回以上配信するなど、広報活動全般の推進を図る。	C B B	問の担当教員を1年間固定し、訪問校と話しやすい環境作りに努めた。 ・学校説明会の参加者は1,703名で昨年度より140名ほど増加した。しかし、アンケートの満足度は94.2%と目標に届かなかった。次年度は生徒をより全面に出したり、内容を充実させたりしたい。 ・広報についてはポスターの種類の増加、HPのトップページをスライダー形式に変更するなどより本校に興味を持ってもらうような取り組みを行った。HPの更新やメール配信は目標を達成できた。次年度はアンケートを踏まえて、説明会の内容の充実や部活動体験の増加、インパクトのあるポスターの作成や紹介動画の更新を行い、さらなる受検者数の増加を目指したい。
第1学年部	・菟道高校生としての自覚と態度を身につけさせる。 ・基本的な生活習慣を身につけ、「チーム菟道」として、3年間共に頑張る集団を育成する。	・あいさつや身だしなみの大切さを伝える中で菟道高校生としての自覚を持たせ、一人の社会人として責任ある行動を取れるよう指導する。 ・初期指導や規則を守らせる指導の中で、周りに対して気遣いや配慮ができる生徒を育てるとともに、お互いに切磋琢磨できる集団を育成する。 ・家庭学習の習慣を身に付けさせ、年度末には平均の家庭学習時間を3時間以上確保できるよう指導する。	B B C	・周りの生徒と協調して活動に取り組む場面が多く見られ、良い形で集団づくりができた。さらに「チーム菟道」を理解させるとともに、今の良い集団の雰囲気をも第2学年につなげていきたい。 ・家庭での学習時間は、1日の平均が2時間程度の生徒が多く、目標が達成できていない。春休みも家庭での学習習慣を意識させ、2年次には、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけられるよう、教科と連携して対策を取っていきたい。
第2学年部	・1年次に築いた菟道高校生としての生活習慣を確固たるものとし、学校生活を充実したものにさせる。 ・自分の目指すべき将来像を描かせ、進路目標の実現に向けて計画的に学習する習慣を身につけさせる。	・1年次に築いた菟道高校生としての生活習慣を確固たるものとし、学校生活が充実したものにさせるために学期毎に面談を行い生徒自身に現状を分析させる機会をもたせる。 ・進路学習を充実させ、学びたいことを具体的にイメージにさせる機会をもたせるとともに進学先の進路研究を主体的に行わせる。 ・学習の質と量を充実させるためにも、個々の生徒に合った学習スタイルを確立させるとともに、生活記録をつけることで時間管理を意識させ、一日3時間の家庭学習を目指す。	B B	・進路について共に考え、進路研究を進めることはできたが、まだ将来の目標が未定の生徒もいるので、今後も面談を通じて考えるきっかけとさせたい。 ・ほぼ1年を通じて学習記録をつけてきた。平日3時間の目標を達成している生徒もおり、進路実現に向け意識の高まり、主体的に学習を進めさせていく指導を進めていく。今後は個々の進路目標に応じた教科のバランスを考えた学習を進めていくことが課題である。

第3学年部	・多様化、複雑化する社会に適応し、将来を切り開くために学校生活を通して自ら判断し行動できる集団を育成する。	・服装指導、遅刻指導などの生活指導を充実させ、高校生という立場だけでなく、社会人として行動できるよう指導する。 ・年3回以上の生徒面談を行い、自分自身と向き合わせる機会をもたせ、自らの課題を解決するためのプロセスを模索させる。	B	B	・遅刻指導について、登校指導等を行ったが、学年末に指導生徒が多数でてしまった。3、4回の遅刻で注意喚起を促す指導の充実が必要であった。 ・面談で生徒に進路や学校生活について考えさせる機会を持たせることができた。出願面談については、計画的な出願ができていない生徒も多く、より充実したものにする必要があった。 ・進路指導部との連携がとれず、担任団で判断することがあり、事前の打ち合わせをしっかりと行えなかった事が課題である。 ・土曜菟活の充実を図るため、講座を開講し生徒のニーズに合ったものにしようと努力した。夏の菟活補習では欠席者が多く出てしまった。生徒に菟活補習の意義を理解させるとともに、講座内容の充実を図る必要がある。
	・進路希望実現のため、最後まで粘り、やり遂げる学習集団を育成し、国公立大学合格者数70人以上を目指す。	・進路指導部と連携し、進路に関わる行事を充実させることで生徒の進路研究を深化させる。 ・学習の核となる授業に積極的に参加させる指導を行う。また、菟活補習や土曜菟活、自習室などを活用させて、生徒一人ひとりの学習活動を充実させる。	C B		
事務部	・本校の経営目標を達成するための基盤として、生徒が安心して高校生活を送れるように授業料及び就学支援金制度に関する事務を適正に執り行う。	・授業料、就学支援金事務においては、制度や手続きを適正に運用し、その手段としての授業料システム上での入力作業を的確に実施し、担任教員との連携を通じて、生徒・保護者からの信頼に応える。	B	B	・就学や進学を支援するための援護制度については、適切な時期に保護者へ通知するとともに、丁寧な対応を心掛ける事ができたが、授業料システムの作業に戸惑うこともあったため、作業を的確に慎重に行うことを重視したい。 ・日本学生支援機構の説明会を実施したが、保護者からの問合せも多いため、来年度は保護者向けの開催を検討したい。 ・学校説明会及び学校公開に関して、関係分掌と連携を密にしながら進めてきたが、費用効果も含め見直しを図ることが課題である。
	・質の高い授業と充実した進路指導を行い、生徒一人一人の希望進路を実現させるため、日本学生支援機構の予約奨学金制度等の周知を図り、第3学年部との連携を密にし、経済的理由で進学を断念せざるを得なくならないよう努める。	・生徒の進路希望の実現を見据え、日本学生支援機構の予約奨学金制度等の周知を図るため、3年生を対象とした説明会を開催する。 ・1学期と2学期の各申込時期に奨学金申込み希望生徒に対して、手続きを適切に指導し、申込みの機会を逸することのないようにする。	A		
	・開かれた学校づくりを進め、本校の魅力を積極的に発信し、教育活動の活性化につなげるため、広報担当教員との連携を密にし、学校PR用印刷物を適切な時期に効果的に作成する等、特色化事業の実施や広報活動の充実に関わる。	・学校説明会及び学校公開に関して、準備から当日までの運営に積極的に関わる。 ・学校PR用印刷物の作成等、学校の特色化や広報活動に関し、適正な契約事務・会計処理を行う。	B		

平成29年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 教科領域

評価領域 (教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		進捗状況（成果と課題）
			項目	総合	
国語科	・高校国語の学力充実を目標とし、読解・表現の向上を図る授業をバランスよく行う。また国語の力のベースとなる思考力・判断力・表現力を高め、希望進路の実現を図るとともに、社会人としてのコミュニケーション能力の育成につなげていく。	・希望進路実現のため、また国語に一層の興味と関心を持てるよう、模試分析や授業アンケートを通して、質の高い授業づくりに努め、指導方法の研究や実践交流を行う。	B	B	・年間を通して小テスト、課題を課すことができた。今後さらに生徒の実態に合わせ、課題の内容等を精選していく必要がある。 ・新テストに向けて、教科内で知識を共有し、授業のあり方を模索していくことが来年度の課題である。
		・単語や文法事項などの定着のため、小テストや課題を継続的に課し、これらの基礎基本事項の積み重ねから応用問題にも対応できる力を養成していく。	B		
		・授業の中で探究的な学習を取り入れることによって、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていくことのできる指導を行う。	C		
地歴・公民	・地理・歴史・公民それぞれに興味・関心を持たせることで、現代社会の諸問題を考える能力を身に付けさせる。 ・基礎・基本的な知識の定着を図り、積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせることで、希望進路の実現につなげる。	・小教科の担当者同士の打ち合わせや意見交換を密にし、教科内での授業公開を活発に行うなどして、よりよい授業の展開に努める。	B	B	・新採教員の研究授業の見学を含め、指導方法の改善等について協議を持つ機会が増えた。 ・定期試験や小テストを小教科内で実施した。次年度以降も改善しつつ行っていく必要がある。
		・計画的に定期試験や小テストを行い、また、課題やレポートを課すことで、学習習慣や基礎学力の確立を図る。	B		
数学科	・3年間を見通した学習指導を行い、一人一人に希望進路の実現につながる学力を付けさせる。	・より質の高い授業をするように努めるとともに、実力を育成するための十分な演習時間と質の確保に努める。	A	B	・日々の授業の中で演習時間と質の確保に努めた。 ・生徒が自ら学力を伸ばそうという姿勢を育てる段階には至っていないため、次年度以降も意識を高めるための取り組みを行っていく。模擬試験や入試に対応できる実力を育成するため、授業の質の確保に努めた。 ・3年間を見通した適切な授業展開等についても、研究しているところであり、模擬試験の結果を見る限り、確かな学力をつけさせる段階には至っていない。次年度以降も3年間におけるその年度の位置づけを意識して指導を行なう。
		・家庭学習の意識を高めるために、各自の課題を明らかにすることで、生徒が明確な目標を持って学習に取り組み、自ら学力を伸ばす生徒を育てる。	B		
		・1年生、また2・3年人文発展の生徒に対し、確かな学力をつけさせられるように3年間を見通した適切な授業展開、課題の提示、取り組みを更に深めて研究する。	B		
理科	・自然科学に対する生徒の興味・関心・意欲を高める。	・基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的なものの見方や考え方を身に付けさせる。授業に演示実験や視聴覚教材を多く取り入れる。	B	B	・問題演習ノートの提出を定期考査前に課し、授業内容の定着がほぼできた。実験・実習については、年度当初の予定通りに実施することができ、レポートを提出させた。高大連携事業や総合的な学習の時間を通
		・全科目で実験や実習を年間3回以上実施し、レポートの作成方法を指導して全員に提出させる。また高大連携事業などにおけるプレゼンテーションなどを通して、能動的に学ぶ姿勢を養う。	A		

理科 (続き)	・進路選択に対応できる学力を育成する。	・授業の順序や内容を適切に組み立て、効果的な指導を行う。学習内容の定着のため可能な限り問題演習をさせ、演習ノートを年間5回程度提出させる。 ・小テストや課題テスト等を適宜実施し、基本事項の定着を図る。授業と家庭学習の関連付けを明確にし、学力補充や進学補習にも積極的に取り組ませ、進路実現のために必要な学力を身に付けさせる。	A B	し、生徒の興味・関心を引き出し学ぶ姿勢を高めさせることができた。 ・家庭学習を、課題テスト・小テスト等と関連づけて基本事項の定着を図ることができた。今後、さらに学力を向上させる具体的な方策を検討していく。
保健体育科	・運動実践や体育理論を通じて、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、運動することの意義を理解させる。 ・自己に応じた体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を付けさせる。 ・健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を管理・改善していく能力を付けさせる。	・限られた運動施設・設備の中で、可能な限り生徒の能力に応じたスポーツを選択させ、意欲的に取り組むようにさせる。 ・体育理論での講義を通して、運動やスポーツに対する文化や身体の構造を理解させる。 ・選択制授業を通じて、自ら計画を立て運動やスポーツに取り組むことができる基盤を作り上げる。 ・事故、ケガのないよう、用具の使用法や安全に留意させる。 ・健康の管理・改善をするための、情報を提供する「発表」とその情報をまとめる「収録作り」を実践させる。	B B	・自分の興味や関心ある種目を選択することで、自分から進んで取り組むことができた。 ・大きな事故や怪我もなく安全に授業を進めることができた。 ・「集録」の作成により、生徒は身近な健康問題として捉えることができた。
芸術科	・基礎的・基本的な技術の定着を図り、意欲的に活動する姿勢を育成する。更に、定着した技術を基に独自に応用する能力を身に付けさせる。 ・授業での活動を通じて、自国・他国の文化芸術を尊重する人材を育てる。	・意欲や創造性を引き出せる指導法の研究と教材の精選をすすめ、生徒が充実感を持てる授業を行う。 ・知識や好奇心を満たすことで、能動的に行動することができる様に促す授業を行う。 ・芸術祭を中心に発表させることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。 ・学んでいる内容とその背景にある社会や文化の関係を明確にする。	B B	・それぞれの選択した科目の中で設定された単元・課題に真摯に取り組んだ。作品制作や練習の成果を発表する芸術祭では、それぞれの成果を2月24日25日に展示・発表することができた。 ・授業においては、生徒の人格形成に資するような授業の展開を心がけ、自分だけでなく他者及び社会との関わり合いの大切さを教えることができた。 ・知識や教養の面で生徒の知的好奇心を満たせる授業を心がけた。
英語科	・基礎学力の定着を図るとともに、応用力を身につけ、それぞれの進路希望に対応できる実践力を養う。 ・英語学習への意欲・関心を高め、自主的・主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせ、実践的な英語運用能力につなげる。 ・英語でのコミュニケーションに対して積極的な態度を養う。	・年間の学習指導計画を把握させ、予習復習を奨励し、日常の学習に対する意欲を高める。小テストや各種テストおよび課題の内容を精選し、学習習慣と基本的学力の定着を図りつつ、応用力を養う。 ・外国人指導助手との意思疎通を十分図り、アウトプット活動を効果的に取り入れる。 ・GTECを新たに導入し、今後の長期的な指導に活かしていく。また英検の受験を奨励し、自主的に学習する姿勢を育む。	B B B	・授業を大切に、小テスト、錬成・定期テストなどにしっかり取り組むことを基本に、学力向上に向けての基礎の構築ができた。夏期・冬期苑活、難関大講座、国公立大学二次指導など、効果的な取り組みとなるよう内容・教材を検討し、生徒の学習意欲を高めた。 ・ALTとの調整を密にして、実践力を養えるよう授業内容を工夫した。

英語科 (続き)					・G-TECテストを導入し、英語の四技能向上に向け対策を工夫した。英検受験者に対して受験指導を充実させ成果があった。
家庭科	・家庭生活の充実向上を目指し、何ができるかを主体的に考え、学んだことを活用できる力を養う。	・アクティブラーニングの手法を様々な場面で取り入れ、実験・実習	B	B	・生徒が主体的に課題解決に向けて学ぶことができるように、できるだけ多く実験・実習を行った。 ・今年度より始めた妊婦体験の実習では、限られた時間ですべての生徒が積極的に実習に取り組めるよう、次年度は班人数や実習課題の調整を図りたい。 ・生徒は意欲的に課題に取り組み、作品等の提出状況は良好であった。
		・グループワークなどを通して、コミュニケーション能力を養う。	B		
		・社会人講師による講演や校外での体験学習を通して、タイムリーに社会状況を把握し、本物に触れることで、自ら生活課題の解決方法を探求し、問題を解決する力を育てる。	B		
		・体験学習ごとにレポート提出を課すことで、学んだこと、感じたことを自分の言葉で表現する力を養う。			
情報科	・受信した情報を正確に理解する能力の育成及び、情報発信者の意図を読み取る能力を育成し、自分の考えが正確に発信する能力を育成する。	・時代の流れに即応した授業内容にできるよう、時事の話題を随時授業に取り入れ、メディアリテラシーや情報モラル・マナーを普段の生活で実践できる力を身に付けさせる。	B	B	・情報モラルやメディアリテラシー、SNSの危険性など時事の話題を取り入れ授業を行った。しかし、スマートフォンを使うマナーやTPOなども指導すべきであった。次年度は取り入れたい。 ・実習については総時間数の2分の1以上割り当てることができた。また、プレゼンテーションやアルゴリズムなど実践的な実習課題を5テーマ取り組めた。次年度はさらなる技能の定着をめざし、とプログラミングも取り入れたい。
		・情報を主体的に捉え、扱えるようにするため、実践的な実習課題を年間3テーマ以上、総授業時数の2分の1を実習に割り当てる。	A		

学校関係者 評価委員会 による評価	・学校をあげて魅力ある学校づくりをしていることがよくわかった。 ・文武両道を目指す本校において、部活動加入率が80パーセントを越えていることは素晴らしいことであるが、部活動に加入していない生徒、また退部した生徒の実態についても把握し、丁寧に指導していることが分かった。担任からの聞き取り調査により把握し、習い事や家庭学習にしっかりと時間をかけている生徒がいることも分かった。 ・広報については、学校案内や学校紹介ポスターの刷新、またよりわかり易い内容や方法に変えたことが来校者数の増加に繋がったものと思われる。学校案内には生き生きとした菟道生を登場させるとさらに良い宣伝になると思われる。 ・登下校時の安心安全を確保するために、携帯・スマートフォンの校内持ち込みを許可制にしたことで保護者や生徒に安心感を与えることができた。ただし、歩行中のスマートフォン使用については継続して指導をして欲しい。 ・水分補給等のための飲料用自動販売機の設置、またお弁当販売についても検討がされ、次年度から販売となることにより、生徒や保護者から喜ばれるものと思われる。 ・自習用の個別ブースが設置され、生徒の利用率が高いと報告を受けたが、学習環境を整えることで学習効果が上がると考える。現在は3年生の自習室のみの設置であるが、1・2年生も利用できるようなるとよい。

次年度に 向けた改善の 方向性	・本校の教育理念の一つである「文武両道」を追求し、部活動の更なる活性化と授業改善に取り組むとともに生徒の学力を向上させ確実に進路保障をしていく。 ・大人にとっての「チーム菟道」とは、本校関係者だけでなく地域の人々からも支援をいただくことであり、地元の人的、文化的財産を活用した取り組みを継続して行っていく。また、校内組織が有機的に連携し、全職員が最大限の教育効果を上げる意識を持ち、職務に取り組む。 ・広報全般について、本校生が主体となり本校の魅力を最大限に表現する内容とし、生徒募集につなげる。 ・今年度、通学途上の安心安全のため携帯電話、スマートフォンの校内持ち込みを許可したが、使用については規程に従うように指導していく。また、SNS等の使用についても、リテラシー力を向上させ、上手に活用できる生徒を育成する。 ・校内の施設設備については、可能な範囲で更新をし学習環境を整えていく。